

範宙遊泳（はんちゅうゆうえい | Theatre Collective HANCHU-YUEI）

2007 年より、東京を拠点に海外での公演も行う演劇集団。

現実と物語の境界をみつめ、その行き来によりそれらの所在位置を問い直す。

生と死、感覚と言葉、集団社会、家族、など物語のクリエイションはその都度興味を持った対象からスタートし、より遠くを目指し普遍的な「問い」へアクセスしてゆく。

近年は舞台上に投写した文字・写真・色・光・影などの要素と俳優を組み合わせた独自の演出と、観客の倫理観を揺さぶる強度ある脚本で、日本国内のみならずアジア諸国からも注目を集め、マレーシア、タイ、インド、中国、シンガポール、ニューヨークで公演や共同制作も行う。

『少女 X』で Bangkok Theatre Festival 2014 最優秀脚本賞と最優秀作品賞を受賞。

『バナナの花は食べられる』で第 66 回岸田國士戯曲賞を受賞。

山本卓卓（やまもと・すぐる | SUGURU YAMAMOTO）



作家・演出家・俳優。範宙遊泳代表。山梨県生まれ。

幼少期から吸収した映画・文学・音楽・美術などを芸術的素養に、加速度的に倫理観が変貌する現代情報社会をビビッドに反映した劇世界を構築する。

オンラインをも創作の場とする「むこう側の演劇」や、子どもと一緒に楽しめる「シリーズ おとなもこどもも」、青少年や福祉施設に向けたワークショップ事業など、幅広いレパートリーを持つ。

アジア諸国や北米で公演や国際共同制作、戯曲提供なども行い、活動の場を海外にも広げている。

ACC2018 グランティアアーティストとして、19 年 9 月～20 年 2 月にニューヨーク留学。

『少女 X』で Bangkok Theatre Festival 2014 最優秀脚本賞と最優秀作品賞を受賞。

『バナナの花は食べられる』で第 66 回岸田國士戯曲賞を受賞。

公益財団法人セゾン文化財団フェロー。

Writer/Director, HANCHU-YUEI representative. Born in Yamanashi Prefecture in 1987.

Grounded in the films, literature, music and art he absorbed from a young age, he constructs a world on stage which vividly reflects the modern "information society" where ethics and moral values change at an accelerated pace.

He has a wide repertoire, include "The Theatre on the Other Side," which is also a platform for online creation, "Series Adults and Children" that can be enjoyed together with children, and workshops for young people and welfare facilities.

He has been involved in many performances, international co-productions, and plays in other Asian countries and North America.

He has been ACC 2018 Grantee Artist and studied in New York City from September 2019 to February 2020.

"Girl X" garnered him the Bangkok Theatre Festival 2014 Award for Best Original Script and Best Play.

He won the 66th Kishida Kunio Drama Award for "BANANA FLOWER CAN BE EATEN."

He is a Fellow of The Saison Foundation.



範宙遊泳公式 web サイト

■宣材写真

https://drive.google.com/drive/folders/1UCUW56Q-K2Xpf2F7Y4g2Y8G0u02cV?usp=share_link

※可能な限りクレジットをお願いします。

撮影：雨宮透貴

■参考資料

・過去作記録映像

<https://www.hanchuyuei2017.com/video>

・インタビュー、劇評、エッセイなど一覧

<https://www.hanchuyuei2017.com/media>



合同会社範宙遊泳 代表：坂本もも

〒158-0083

東京都世田谷区奥沢 3-47-8-406

090-6182-1813 info@hanchu-yuei.com

■海外での経験

TPAM in Yokohama 2014の参加を契機に海外展開。現在までに9カ国13都市で事業を行う。

<上演国>

- マレーシア（クアラルンプール）
- タイ（バンコク）
- インド（ケララ、デリー、バンガロール、プネ、ムンバイ）
- シンガポール
- 中国（杭州）
- アメリカ（ニューヨーク）
- オーストラリア（シドニー）

<国際共同制作>

- マレーシア（2014）：Ayam Fared と共同演出で『幼女X』のマレー語版『Gadis X』を上演
- タイ（2015）：Democracy TheaterのDtamと共同演出で、台詞のないダンス作品『Girl X』を上演。
- インド（2016-17）：The Tadpole RepertoryのNeel と共同脚本、共同演出、出演者も両国3名ずつで、新作『午前2時コーヒークップサラダボウルユートピア-THIS WILL ONLY TAKE SEVERAL MINUTES-』を制作。インド4都市と東京のツアー。
- シンガポール（2016-17）：The Necessary Stageと3年計画の共同制作。Haresh Sharmaと共同脚本、Alvin Tanと共同演出、出演者も両国から迎え、新作『SANCTUARY-聖域-』をシンガポールと横浜で上演。

<戯曲提供やシンポジウムなどの国際交流を主軸とした事業>

- アメリカ・ニューヨーク（2016）：NY現代日本戯曲英語版リーディング・シリーズ『幼女X』
- インドネシア・ジョグジャカルタ（2019）：アジア劇作家会議2019
- 韓国・ソウル（2020）：第9回現代日本戯曲朗読公演『その夜と友達』
- 韓国・大邱（2021）：너스레（Creative Team Neosure）に『その夜と友達』を提供
- マカオ（2022）：友人創作(藝術)劇團に『その夜と友達』を提供
- 韓国・ソウル（2024）：연극 연합 동아리 아무튼（プレジェットアムツン）に『その夜と友達』を提供
- マカオ（2024）：友人創作(藝術)劇團に『その夜と友達』を提供

<留学>

アジアン・カルチュラル・カウンシル（ACC）2018グランティアーティストとして、19年9月～20年2月にニューヨーク留学。

<英語字幕付きの映像>



『うまれてないからまだしねない I can't die without being born』（2014）
Subtitles : Chinese, English, French, German, Korea, Russian, Spanish,



『われらの血がしょうたい Colours of Our Blood』（2016）
Subtitles : English



『その夜と友達 This Night and His Friends』（2018）
This play has been translated into English and Korean.

<翻訳済みの作品>

- 『幼女X』（2013）
- 『うまれてないからまだしねない』（2014）
- 『となり街の知らない踊り子』（2015）
- 『われらの血がしょうたい』（2016）
- 『その夜と友達』（2017）
- 『バナナの花は食べられる』2（023）
- 『心の声など聞こえるか』（2024） ※翻訳作成中